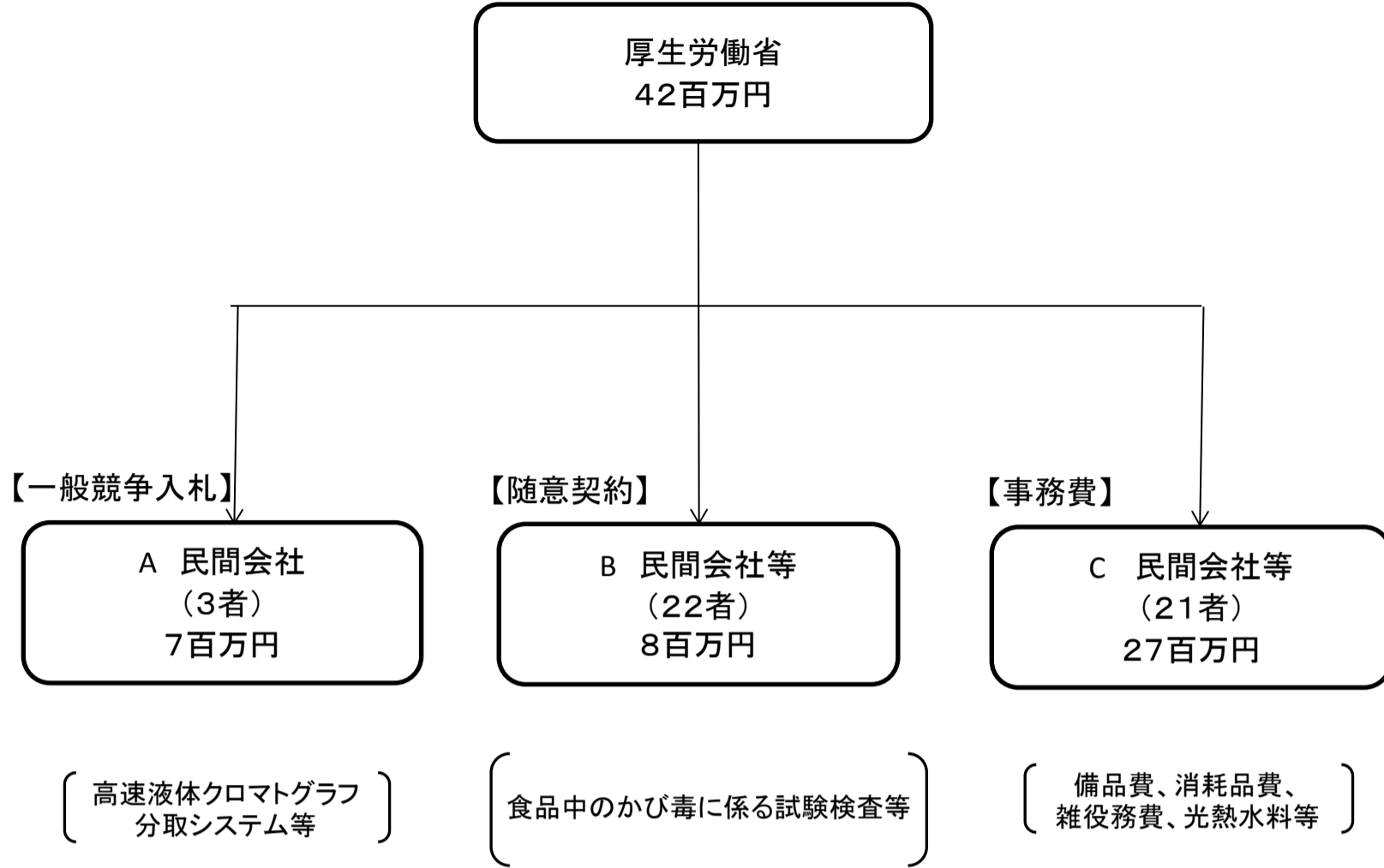


平成25年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	食品汚染物質の安全性検証推進事業		担当部局庁	食品安全部	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成16年度		担当課室	基準審査課	長谷部 和久			
会計区分	一般会計		政策・施策名	Ⅱ-1-1 食品等の飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止すること				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	食品衛生法第11条		関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	食品中の汚染物質(ヒ素、カドミウム等)における精密な暴露状況を把握し、個人によって摂取頻度の異なることに着目した安全性を検証し、今後のリスク低減のための方策(摂食指導、基準値の設定及び見直し)を講じる際の基礎データを得ることにより食品の安全性を確保する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	個人によって摂取頻度の異なる食品について、一定期間内の摂取実態調査を実施し、精密な汚染物質のばく露量を推定する。また、食品中の汚染物質(ヒ素、カドミウム等の重金属)は通常的环境中に広く存在していることから、広範囲の食品について、汚染物質の含有濃度実態調査を実施する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算の状況	当初予算	28	51	50	50	50	
		補正予算						
		繰越し等						
		計	28	51	50	50	50	
	執行額		25	53	42			
執行率(%)		89.7%	103.9%	84.0%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	食品汚染物質の規格基準等の設定		成果実績	件	3	2	—	—
	食品からの汚染物質の精密な暴露量の推定を踏まえた上で、新たな規格基準の整備などを行うものであるため、成果目標の設定は困難		達成度	%	—	—	—	
	コーデックス委員会等への物質報告数		成果実績	件	4	2	1	—
コーデックス委員会等からのデータ提供依頼については不定期であるため、成果目標の設定は困難		達成度	%	—	—	—		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	食品汚染物質の実態調査(対象物質数)		活動実績 (当初見込み)	物質	3 (—)	2 (—)	3 (—)	— (7)
	食品汚染物質の試験法検討(対象物質数)		活動実績 (当初見込み)	物質	45 (—)	44 (—)	41 (—)	— (5)
単位当たりコスト	946(千円/件)		算出根拠	○平成24年度 執行額÷活動実績 41,622千円÷(3物質+41物質)≒946(千円/件)				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0.1	0.1					
	委員等旅費	0.1	0.1					
	庁費	0.1	0.1					
	食品等試験検査費	50	50					
	計	50	50					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	近年、事故米転売事件によるアフラトキシン汚染、中国製加工食品のメラミン混入など、食品中の汚染物質に関する事案が頻発し、国民の食に対する不安が増大しており、食品の安全性を確保するため、国内に流通する食品中の汚染実態やばく露状況等の調査、基準値の設定等を行う本事業は、国民のニーズが高く、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	食品衛生法に基づき国が基準の設定等を行うのに必要なデータの収集や設定した基準を継続的に検証する本事業は、国が実施すべきものである。		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○	食品中の汚染物質(ヒ素、カドミウム等)における精密な暴露状況を把握し、個人によって摂取頻度の異なることに着目した安全性を検証し、今後のリスク低減のための方策(摂食指導、基準値の設定及び見直し)を講じる際の基礎データを得ることにより食品の安全性を確保するために、優先度の高い事業となっている。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	支出先の一部に随意契約がある。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○	少額随契についても複数者から見積を取り、コストの削減に努めている。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	汚染物質の実態調査のための検査実施機関への委託経費並びに非常勤職員の人件費など必要経費に限定されている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	入札により、当初予定していた予算額以下で実施した調査等があった。		
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	専門家、有識者の見解を踏まえ、国は事業の実施要綱において実効性のある取組を示している。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-	-		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	本事業によって得られたデータは、コーデックス委員会へ提供し、我が国の実態が国際的な規格基準に反映されるよう対応している。		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<p>本事業によって得られたデータは、規制対象物質に対して規格基準を設定するに当たり重要なものであり、コーデックス委員会等の国際会議及び薬事・食品衛生審議会の審議において公表されることが前提となっていることから、適正な内容が得られるよう努めているところである。</p> <p>このため、毎年一定の実施数を確保でき、調査データに基づいて広く一般国民に対し汚染物質の含有濃度が高い食品について摂食頻度を下げよう指導するなどの活用を図っている。</p> <p>なお、調査対象となる汚染物質の選定については、最新の科学的知見及び従前の本調査結果を踏まえつつ検討しており、調査(平成24年度は3物質)の実施に当たっても、精度の高い調査結果が得られるよう努めており、極端な減数には至っていないところである。</p>					
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	本事業は、食品中の汚染物質の含有濃度実態調査等を実施するための経費であるが、事業の必要性及び執行の観点からは概ね妥当であり、引き続き効率的な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
-						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年	0329	平成23年	0299	平成24年	0258	

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り
先が何を行っている
かについて補
足する)(単位:百
万円)

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A. 島津サイエンス東日本(株)			E.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	備品費	高速液体クロマトグラフ分取システム(~Prominence 分取システム) 1式	5	-	-	-
	計		5	計		0
	B. (財)日本食品分析センター			F.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	雑役務費	食品中のかび毒(フモニシン)に係る試験検査 一式	0.9	-	-	-
		清涼飲料水中の化学物質等の試験法の妥当性評価に係る試験検査	0.5			
	計		1.4	計		0
	C. 資金前渡官吏			G.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	雑役務費	給与・賞与	13	-	-	-
	計		13	計		0
	D.			H.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
-	-	-	-	-	-	
計		0	計		0	

支出先上位10者リスト

A. 一般競争入札

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	島津サイエンス東日本(株)	高速液体クロマトグラフ分取システム(~Prominence 分取システム) 1式	5	3	64.90%
2	(株)豊島製作所	超低温槽装置(サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社) 1式	2	2	99.00%
3	東京高圧山崎(株)	平成25年3月分 窒素ガス 28立方メートル 外6点	0.06	4	71.60%

B. 随意契約

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)日本食品分析センター	食品中のかび毒(フモニン)に係る試験検査 一式 他1件	1	随意契約	
2	(株)帝国理化	一次元目元用等電点電気泳動システム Ettan IP Gphor 3~ 1式 他1件	1	随意契約	
3	(株)高長	W369-1070 P2300簡易装着アッセンブリー 1点 他2件	1	随意契約	
4	尾崎理化(株)	Transpack Packaging Extract 100rxn 1点	0.8	随意契約	
5	(株)アズノックサイエンス	消耗品の調達(4件)	0.7	随意契約	
6	岩井化学薬品(株)	消耗品の調達(2件)	0.5	随意契約	
7	日本クレア(株)	スックス飼料 CIEA312 60kg	0.5	随意契約	
8	職員A	サンプル輸送費	0.4	随意契約	
9	ヤマト運輸(株)	研究用試料等の運送 一式	0.3	随意契約	
10	職員B	サンプル輸送費	0.2	随意契約	

C. 事務費

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	資金前渡官吏	給与・賞与	13		
2	東京電力(株)	電気料	6	随意契約	
3	東京ガス(株)	ガス料	1	随意契約	
4	日本無機(株)	4号館クリーンラボフィルタ納入 他2件	1	随意契約	
5	東京都水道局	水道料	0.9	随意契約	
6	(株)一和堂	消耗品の調達(2件)	0.6	随意契約	
7	(株)アイ・シー・エム	消耗品の調達(2件)	0.4	随意契約	
8	(株)豊島製作所	28号館2階衛生微生物部研究室通気用ガラリ取付	0.3	随意契約	
9	(株)高長	R9082000 オートプレッブ MF-T1500 8点	0.2	随意契約	
10	日本空調サービス(株)	28号館2階衛生微生物部エアコン修理作業	0.2	随意契約	